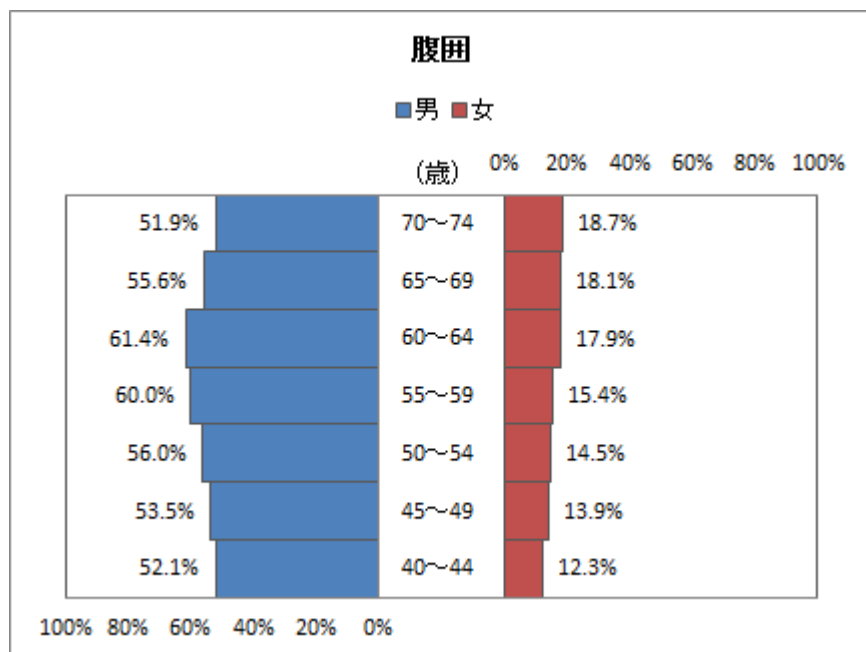


2.1 腹囲

内臓脂肪の増加に反映するといわれており、腹囲の増加が病気につながる。
この検査で疑われる病気は肥満である。



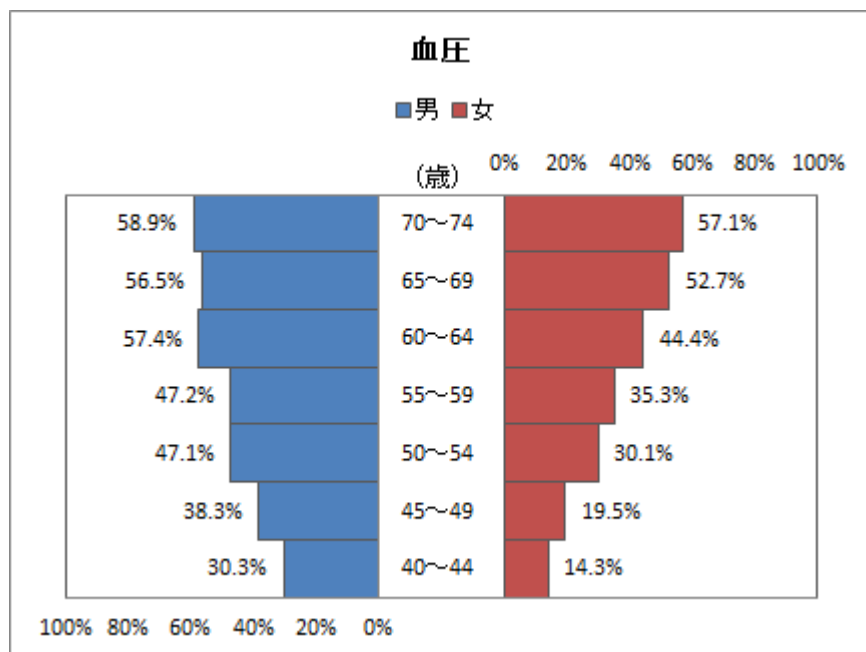
(実施状況)

男性が女性より圧倒的に有所見率が高い傾向である。

2.2 血圧

血圧が高くなると動脈硬化が進み心筋梗塞や脳血管疾患の原因となる。

この検査により疑われる病気は、高血圧症、低血圧症、動脈硬化などがある。



(実施状況)

男女共、年齢を重ねるごとに有病率が高くなる傾向である。

2.3 中性脂肪

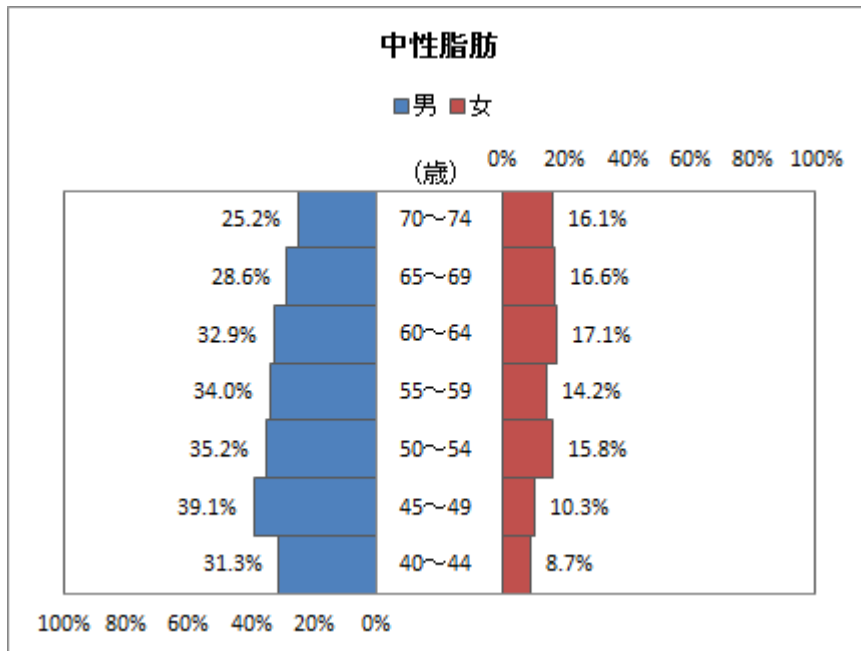
食べ過ぎ、アルコールの飲みすぎ、などで高値になる。

この検査で疑われる病気は、

高値：脂質異常症、脂肪肝、動脈硬化症、甲状腺機能低下症

低値：低栄養、甲状腺機能亢進症

などがある。



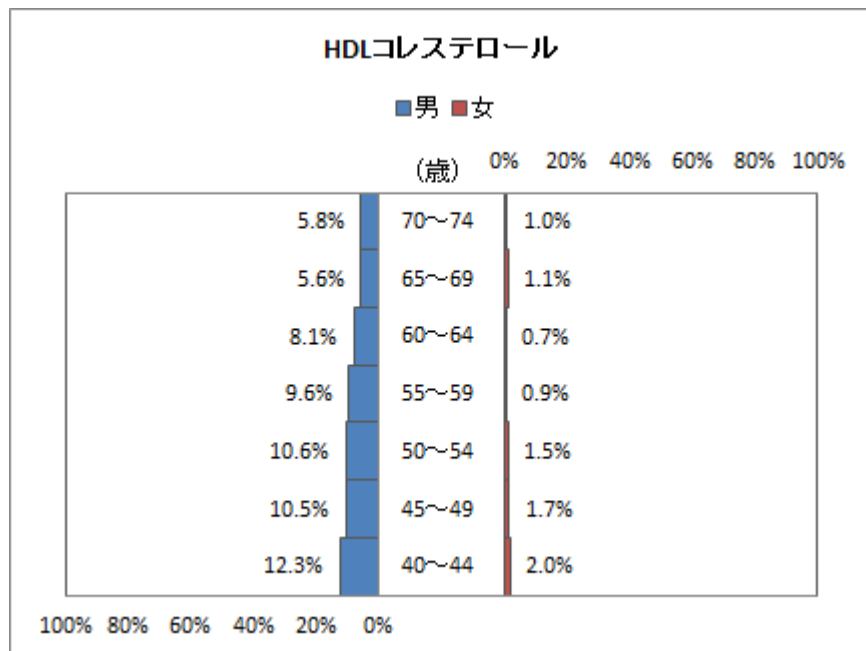
(実施状況)

男性が女性より有所見率が高い傾向である。

2.4 HDL コレステロール

血管に付着した余分なコレステロールを取り、動脈硬化を防ぐ働きがあることから、善玉コレステロールとも呼ばれている。

この検査で疑われる病気は、脂質異常症、動脈硬化症などがある。



(実施状況)

男性が女性より有所見率が高い傾向である。

女性はどの年齢層でも有所見率は2%以下で低い。

2.5 LDL コレステロール

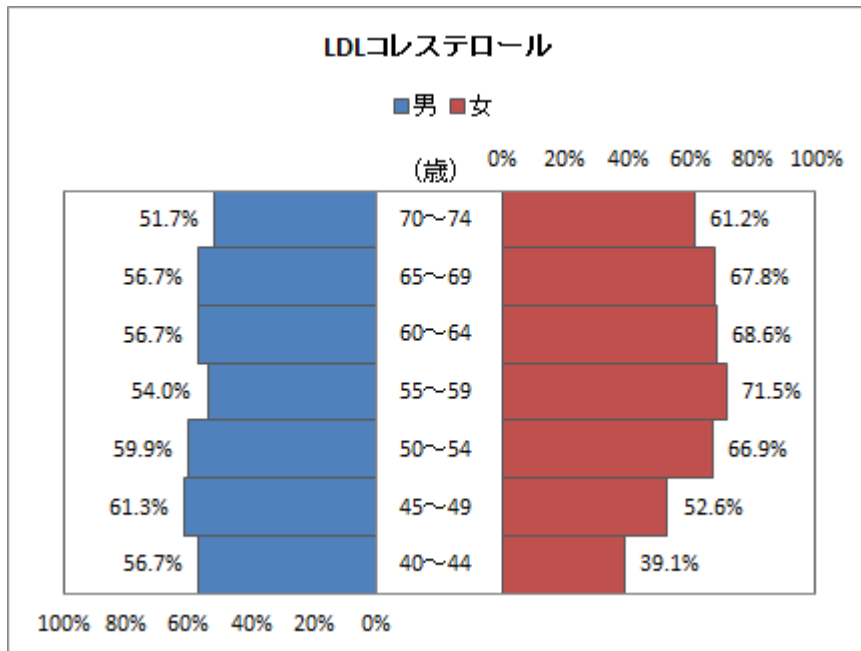
増えすぎると動脈硬化の原因となることから悪玉コレステロールとも呼ばれる。

この検査で疑われる病気は、

高値：脂質異常症、動脈硬化症、甲状腺機能低下症

低値：甲状腺機能亢進症、肝硬変

などがある。



(実施状況)

40歳代は男性の有所見率が高く

50歳以上は女性の有所見率が高い傾向である。

2.6 AST(GOT)、ALT(GPT)

ASTは肝細胞と心筋、骨格筋に多く含まれる酵素である。

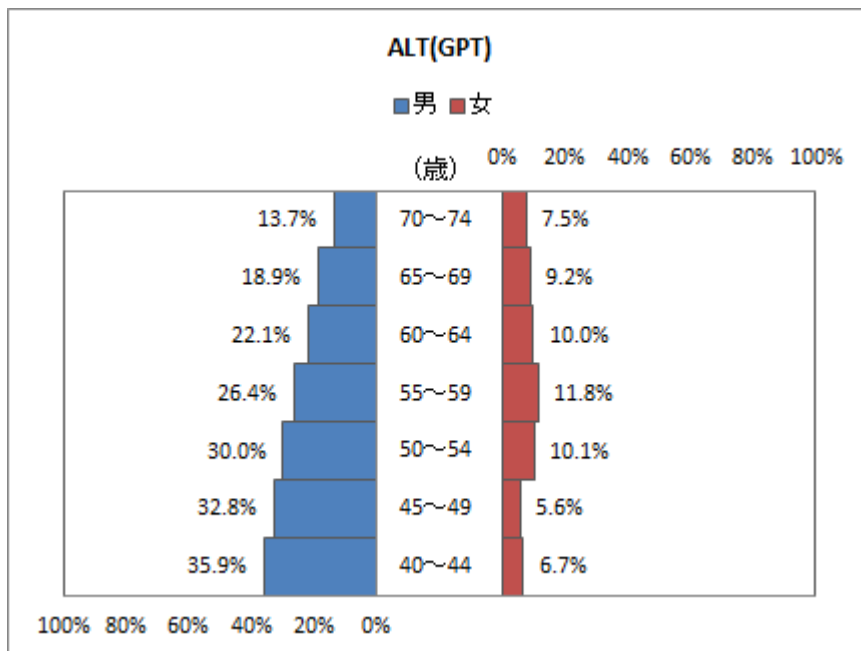
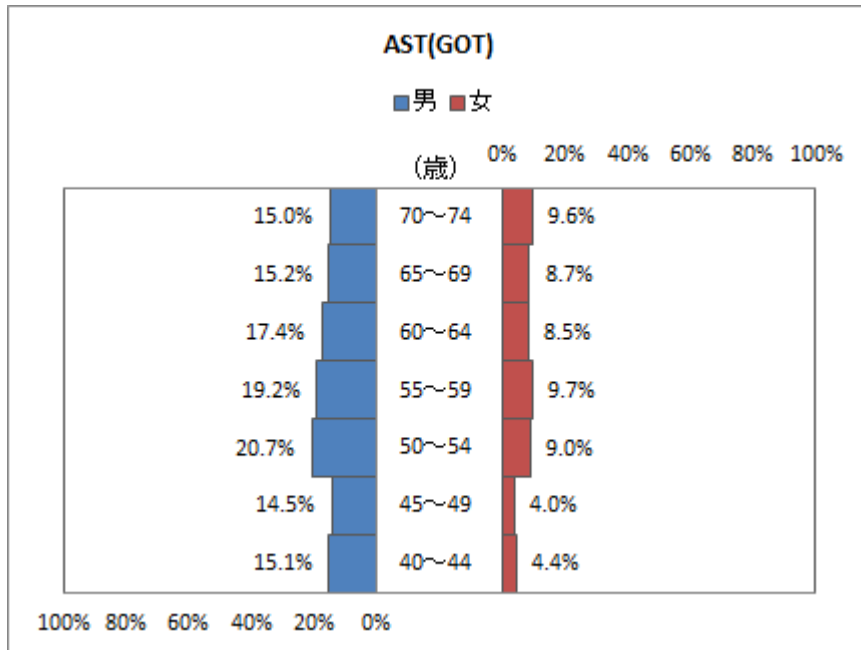
ALTは肝臓のみに多く含まれる酵素である。

この検査で疑われる病気は、

AST > ALT : アルコール性肝炎、肝硬変 など

AST < ALT : 急性・慢性肝炎、脂肪肝 など

ASTのみ : 心筋梗塞、多発性筋炎、溶血性貧血 など



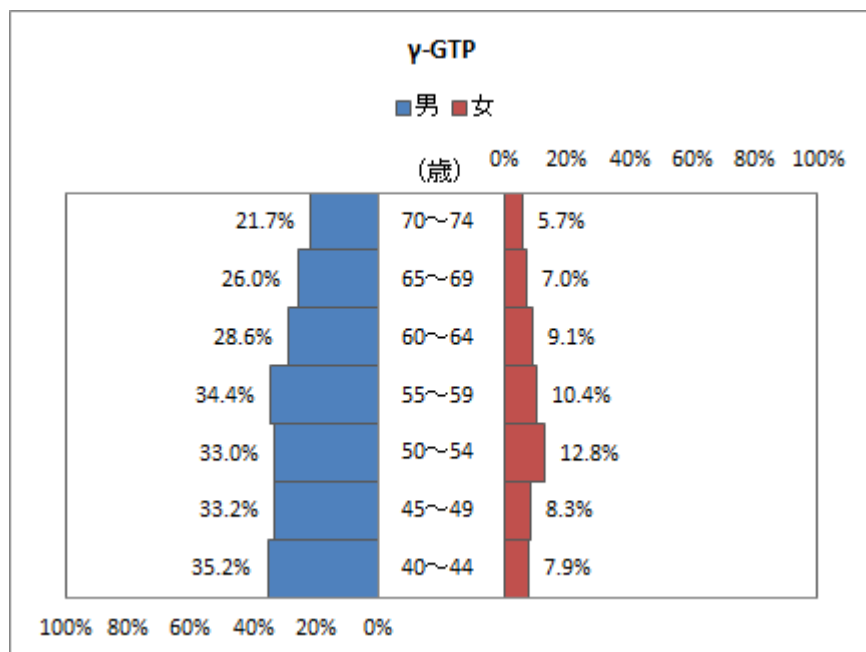
(実施状況)

男性が女性より有所見率が高い傾向である。

2.7 γ -GTP

肝臓の解毒作用に関する酵素。過度の飲酒によるアルコール性肝障害で値が上昇する。

この検査で疑われる病気は、高値でアルコール性肝障害、閉塞性横痂、胆石症、肝炎、急性膵炎 など。



男性が女性より約 3~4 倍有所率が高い

男女共、50 歳代をピークに有所見率が減少する傾向である。

2.8 空腹時血糖

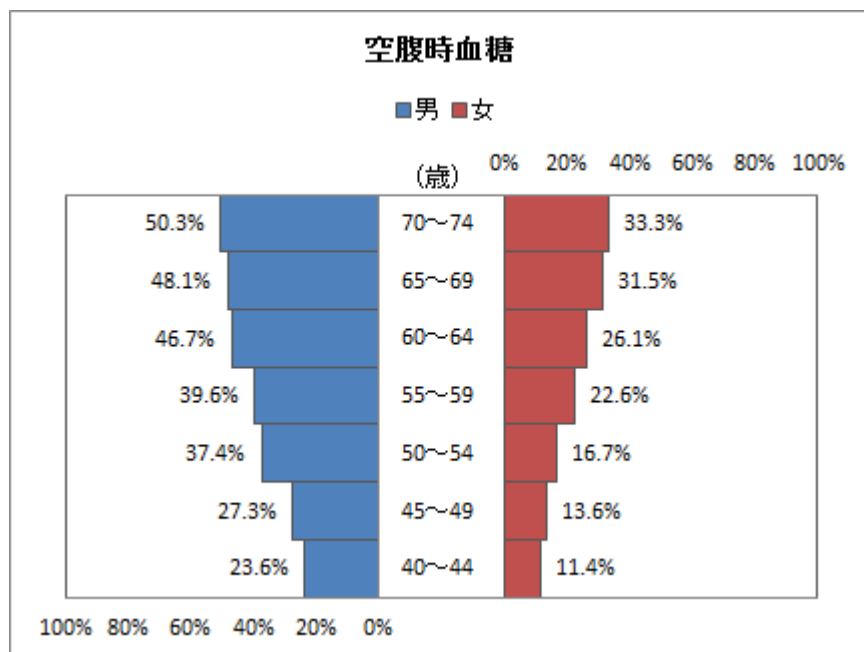
血糖値が高いままの状態が続くと糖尿病と診断される。

この検査で疑われる病気は、

高値：糖尿病、慢性膵炎

低値：甲状腺機能低下症、下垂体機能低下症

などがある。



(実施状況)

男女共、年齢を重ねるごとに有所見率が増加する傾向である。

2.9 HbA1c(NGSP)

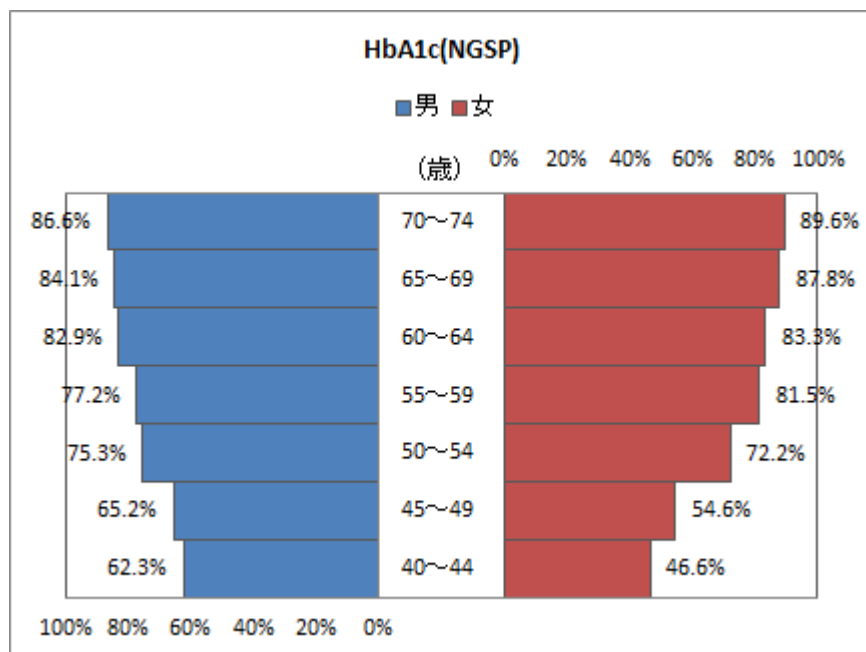
検査前の飲食に関係なく、過去 1～2 か月間の平均的な血糖の状態が分かる。

この検査で疑われる病気は、

高値：糖尿病、腎不全

低値：溶血性貧血

などがある。



(実施状況)

男女共、年齢を重ねるごとに有所見率が増加する傾向である。

2.10 クレアチニン

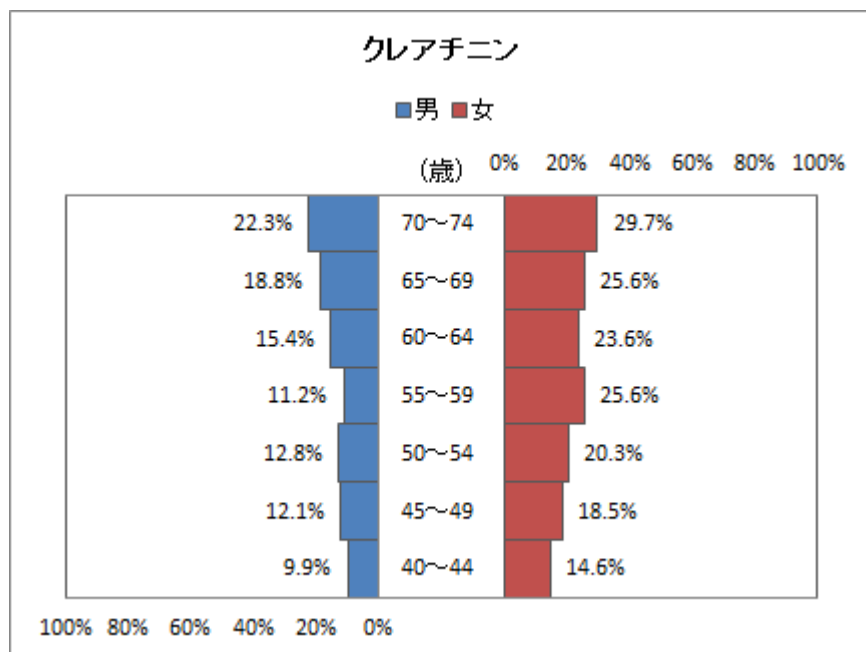
腎臓が正常に働いていれば大半が尿中に排出されるが、腎機能の低下により血液中の値が増加する。

この検査で疑われる病気は、

高値：腎機能障害、腎臓結石

低値：筋ジストロフィー

などがある。



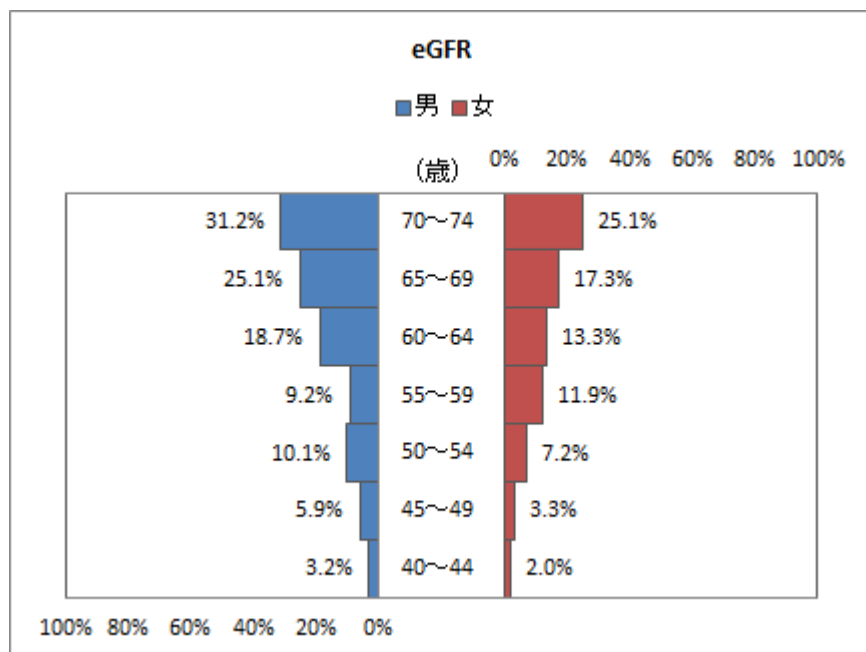
(実施状況)

女性が男性より有所見率が高い。

男女共、年齢を重ねるごとに有所見率が増加する傾向である。

2.11 eGFR

腎臓が老廃物を排泄する能力を調べる機能。クレアチニンの値と年齢、性別から推算する。
この検査で疑われる病気は、低値で慢性腎臓病（CKD）である。



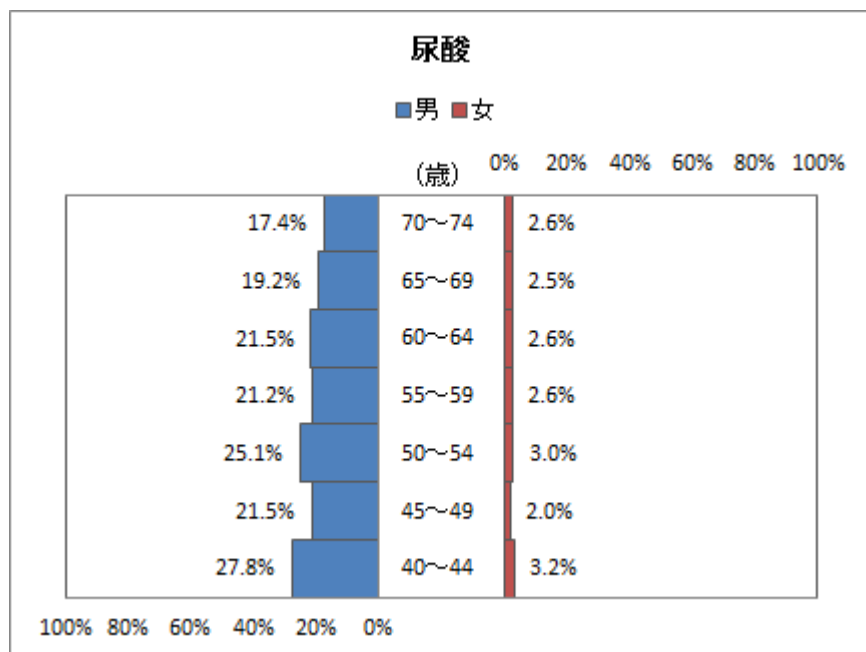
(実施状況)

男女共、年齢を重ねるごとに有所見率が高くなる傾向である。

40~44 歳時と 70~74 歳時を比較すれば約 10 倍に増えている。

2.12 尿酸

老廃物は、尿中に排泄されるが、腎機能の低下やプリン体を過剰摂取すると血液中に増加する。
この検査で疑われる病気は、高値で高尿酸血症（痛風）、腎不全などがある。



(実施状況)

男性が女性の7~8倍の有所見率が高い。

女性はどの年齢層もほぼ有所見率は一定である。